

小田原ガイド協会だより

— O G O 第94号 —

NPO法人
小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22 (〒 250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

2023年 冬～春

とっておき 企画ガイド

1 月【家康公 小田原の100日】



▲写真は無量寺の
徳川家康公夫婦像

小田原北条氏滅亡後、検分で小田原府内に入った徳川家康がこの寺を気に入り、林貞和尚を陣営に招き法話をさせた。文禄三年(一五九四)家康公の命により、当寺を本寺とした分寺が浅草に建立された。

徳川軍は山中城戦役のあと兵を三方に分けて箱根を越えた。①三島から宮城野を経て明神岳を越え久野諏訪原に出た本隊②鷹ノ巣城(箱根町)を陥れ湯坂越えした軍③そして足柄城(南足柄市)新莊城(山北町)を陥れ足柄越えした軍。これらが合流し、小田原城の東方、今井に布陣した。そしてここを本陣とし、北条氏が開城するまでのおよそ百日間滞留した。



▲徳川家康が布陣した 今井陣場跡

天文一四年(一五四五)連歌師谷宗牧の紀行文「東国紀行」に、北条氏康館で歓迎され、館の庭水が芦ノ湖を水源とする早川から引かれた「水道」であることが聞き、感心したことが記述されている。その文章から、既に小田原城下に水道が引かれていたことが知られており、天正一八年(一五九〇)小田原北条氏が滅びた後、戦後処理で小田原府内に入った徳川家康は、この水道を手本とし、江戸入りすると僅か三ヶ月で小石川上水を敷設している。

家康公のまちづくりに影響を与えた
◀小田原用水の取水口

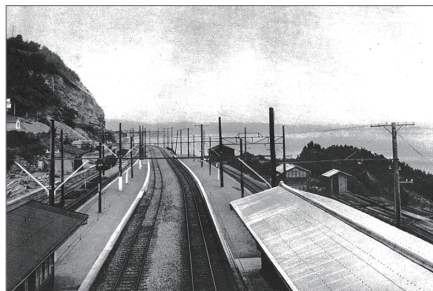


3 月【JR 鉄道 150 年 & 100 年】

明治 5 年(1872) 文明開化のシンボル 鉄道が新橋～横浜間に開通する。明治 20 年(1887)には国府津駅まで伸長するが、東海道線は松田、御殿場経由で沼津駅へ、というルートを迎えることになる。支線 熱海線の小田原駅開業が、大正 9 年(1920)。その後下記三駅が続々と開業するが、大正 12 年(1923)の関東大震災で大きな被害を受ける。翌年から急速に復旧し、真鶴～熱海駅間の開業を経て、昭和 9 年(1934) 丹那トンネルの開通とともに東海道線となる。



【鴨宮駅】大正12年6月1日開業



【根府川駅】大正11年12月21日開業



【早川駅】大正11年12月21日開業



橋口正良

視覚障害者対応のガイドに携わるようになって約七年になります。きっかけは十年前に箱根のホームコースで開催された東日本ブラインドゴルフ大会で、介添え者（ヘルパー）としてプレイしたことでした。ヘルパーはブレイヤー（視覚障害者）の目となって二人一組でコースを巡ります。

事前のコース説明でブレイヤーに「このホールは右傾斜で一五〇ヤード右側にバンカーが口を開けていますので左目狙いで行きましょう」と指示を出し合図をすると、ボールは見事に左方向に飛び出しフェアウェイに打ち出されました。前日、自分自身練習場で目を閉じて打ってみて、そうそう当たるものでないことを実感しているのだからただ驚き、なんで空振りを

しないのだろう…。不思議な一日の始まりでした。

何打目かでグリーンに乗ると、今度は「カップまで約8m。昇りのスライス強めをお願いします」と合図。入りはしなかったものの「OK」の距離まで寄っていく。我々でもなかなかそこまでは寄らない。無心でプレーしている彼らにはとてもかわらないと実感しました。

——それから数年後、視覚障害者協会からガイド要請の連絡が入りました。同協会は春と秋に総会があり、同日午後からの第二部に小田原の街・城址を歩きたいとのことで、その観光ガイドを依頼されたのです。

最初に、小学生向きの読本『小田原』を基に作成した資料で、小田原城について説明し始めました。が、最初から「資料が見えません」とのクレームがあり、従来のやり方ではラチがあかないと痛感しました。

そのときは小田原合戦の話に切り替えました。その後、雨上がりのなか小田原城に向かいましたが、水たまりの注意が主体でウメコ前から馬出門まで一時間しかかかってしまいました。

二回目からは五感（＝視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚）から視覚を除いた四感を中心に組み立てました。まずは嗅覚シリーズで桜・藤・菖蒲等の花見学を何回か行きました。我々はなんにも感じないのに、彼らはかなり遠くから花の匂いが感じとれていました。



触覚シリーズでは発泡スチロールの一夜城跡（写真／元ガイド協会員 府川喜代江氏作成）をウメコの事前学習で触ってもらい、一夜城で実際に崩れた石垣に触れたところ、あまりの大きさに

びっくりしていました。海辺の案内では波打ち際の砂浜を何十年振りかで味わって感涙していた人も。一部の人は砂浜まで行く前の小石の上を歩るのが怖いと途中で止まってしまいました。細かい気配りが必要だと思ひ知らされました。

味覚シリーズでは蒲鉾店やヨロイズカファームには行きまし

たが、買い物域を出ませんでした。今春の桜見学のとき、今回はグルメでお願いしたいとの要望があり、今回は下山氏・渡辺宮子氏にお手伝いいただき、TOTOCOで海の匂いと魚を食するコースを計画しました。

いつもは安全面を考え回遊バスで移動しますが、今回は移動時間短縮でJRを利用。早川駅まで一人の脱落者もなく、駅を出て歩きながら、人車鉄道で客が客車を押した話で盛り上がり、ガードをくぐり国道を渡ると「波の音が…、海の匂いが…」と話すうちにTOTOCOに着。食堂の混雑を予測し、事前に多目的室を予約してあったのが大正解。ゆっくり海鮮丼やデザートを満喫していました。

今回の企画は大好評で「再度希望」の声が多数。皆さん満足そうな顔で帰途につきました。



10月2日ブラインドガイドの様子

*タイトル『ブラインドガイド』は筆者の造語です

企画ガイド

曾我兄弟ゆかりの

下曾我

川目範男

へここ曾我の里は、歴史的遺跡や遺物が何気なく日々の暮らしの中に溶け込んでいる里であり……

これは下曾我駅前の観光案内板の一節ですが、私は昨年から何回も足を運んで、ようやくこの言葉が実感できるようになりました。曾我丘陵からの沢水で形成された扇状地には梅林が広がり、沢筋を避けた台地には縄文時代・古墳時代の遺蹟があり、殿沢川と剣沢川に挟まれた丘一帯には曾我氏の館があったと言われています。

ガイド本番は、九月一七日(土)と二二日(木)の二回で、私は二回目の第二班八名の担当でした。男女比は半々、ご年配の方が多いので急ぎ足にならないように注意して、梅の里センターを出発しました。

宗我神社を経て法輪寺へ、ここでは瑠璃光殿を開けていただき、薬師三尊像を拝観する事が出来ました。撮影可なので、お客様も盛んにシャッターを切っていました。続いて本コース最高点にある

崇泉寺跡へ。ここは、曾我兄弟の養父の祐信が兄弟追悼の為創建した寺です。現在は石碑がその場所を示すだけですが、曾我の里山風景が感じられる私のお気に入りの場所です。丁度、田畑の畦道には彼岸花が真っ盛り、所々に刈入れ前の稲穂が黄金色の彩りを添えていました。

そして、目の前には雄大な相模湾が広がっています。思わずお客様に「曾我は良い所でしょう?」と問いかけると「是非、また来たい」との答えが返ってきました。その後、長一商店さんの梅干場にて酸っぱい香りでリフレッシュ、曾我氏館跡を経て、城前寺で曾我兄弟仇討ちのお話しをしてガイドを締めくくりました。

天候に恵まれ、お客様にも喜んで頂けて、曾我の里が益々好きになった一日でした。



歌川広重 曾我物語図絵 23

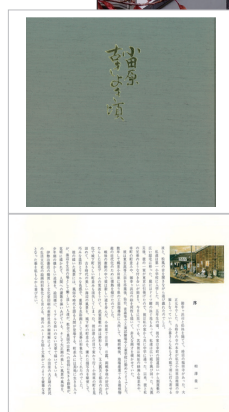
小田原城の正面馬出門すぐ近くにあり、昭和30年から六十七年間続く手打ちそば一筋の名店です。

三百年前から変わらぬ「こね・のし・切り」北海道産石臼挽のそば粉に、地下五〇メートルの井戸から汲み上げられたミネラル豊富な天然水が使用されています。そばだけでなく汁・たね物にいたるまですべて手作りで、手間と時間がふんだんにかけられた伝統ある老舗の「匠の技」を味わうことが出来ます。

田毎初代相澤榮一氏は明治41年生まれ、旧制小田原中学卒業後に小田原漆器を扱うバイヤーとなりましたが、戦後に日本そば店の経営を始めました。昭和22年に発足した「小田原文化会」では有力メンバーとして活発な文化活動を行い、小田原の画家である小暮次郎氏著『小田原古きよき頃』画文集には序文を寄せています。



◀画文集『古きよき頃』と相澤榮一氏の序文



現当主三代目相澤康介氏によると、榮一氏は小暮氏と同級生で幼稚園から中学校まで一緒に兄弟のように仲が良かった。また小田原出身の私小説家川崎長太郎とも親交を深め、その他多くの文化人とも付き合いがあったとのこと。

御当主はじめ田毎の皆様はいつどこでお会いしても柔らかかな笑顔で接して下さいます。お堀端通りを歩いていると、観光客の声が微かに耳に入ってきました。「小田原城に来たら必ず田毎のおそばが食べた

い。早く行こう!」と。

まち歩き

手打ちそば処

た ごと
田 毎

岩本 陽子

企画ガイド

下を向いて歩こう!!

日下部修一

一〇月一六・一七日の二日間で
「集え!!マンホールラーデザインマン
ホールを探して」と題し、小田
原市の下水道整備課とのコラボ企
画で、デザインマンホール蓋を見
て歩く企画を開催しました。企画
段階から参加させていただき、諸
マンホールをほぼ踏破できるコー
スを考えました。

市のデザインマン
ホール設置事業
などの取り組みで
小田原駅周辺では
多くのデザインマン
ホールを見ることが
できます。東
口駅前のバスロー
タリー近くにある「チンチン電
車」からスタートです。おしやれ
横町の北条氏政・氏照の墓の近く
から栄町ダイヤ街商店街には北条
五代のキャラクターマンホールが
並び、商店街の最後にはガンダム
マンホールもあります。かまぼこ
通り周辺には、浮世絵風のものや



姉妹都市友好の証として交換設置
された八王子市、埼玉県寄居町、
および小田原市のカラーマンホー
ルもあります。

小田原宿なりわい交流館では、
本物のマンホール蓋を設置、お客
様が蓋を開ける体験をしました。
郷土文化館前には三〇年ぶりにリ
ニューアルのマンホール蓋第一号
があります。ここでは、下水道整
備課の方が実際に蓋を開けて中を
見ることが出来ました(写真)。
これにはお客様大感激でした。

下水道整備課から「マンホール
カード」は無論、マンホールデザ
インの「グッズ」に

マンホールの焼き
印が入ったへどら
焼きなどマンホー
ル尽くしのお土産
が用意されており、
皆さん大変喜ばれ
ました。「こんなに
沢山あるとは知ら
なかった」「実際にマンホールを
開ける体験まで出来て楽しかつ
た」「たくさんマンホール写真
を撮ることができた」と様々な喜
びの言葉をいただきました。

協会に入会して初めての企画ガ
イドでしたが無事に終えることが
でき、お客様に感謝です。

*OGG第91号参照

分身ロボット
「OriHime」
(オリヒメ)と
まち歩き

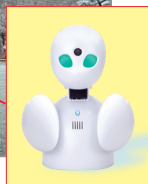
橘川 健人

オリヒメとはヘオリイノベーション研究
所が開発した新しいコミュニケーション
ツールで外出困難者の
社会参加などに活用されている
「分身ロボット」である。今回
一〇月二日に実施された「第
七回日本まち歩きフォーラムin
小田原」のオリヒメ活用まち歩
き体験に先立ち、一〇月八日に
実証実験が行われた。

コースは小田原駅からミナカ
経由で天守閣下まで。参加され
たのは市内在住の車いすユーザ
ーのAさんで、自宅でオリヒメ
をインターネット回線につなげ
たタブレットを操作した。ガイ
ド協会からはガイド担当の私と
兼川さんが参加した。兼川さん
はAさんの分身となったオリヒ
メを抱え、Aさんに通信状況、
見え方など声をかけるサポート
役で、二人で二時間ほどの案内

をした。オリヒメを通してのや
り取りが双方で出来るので、私
はまるでAさんをガイドしてい
るように感じた。Aさんからも
「普段観光に行く機会の少ない
私でも、オリヒメを通してリ
アルな観光を自宅で楽しむことが
出来ました」とのコメントをい
ただき安心した。

当日は天気も良くミナカの屋
上からの小田原城、伊豆大島ま
で見える相模湾の絶景に感激し
ていただいた。今回の実験で、
オリヒメを通して資料や瓦の家
紋など見えにくい部分の説明は
難しいものの、誰でもが充分ま
ち歩きを楽しめる時代がきたこ
とを実感出来た。



リレーエッセイ／わたしの城旅 ⑬

国宝 松本城

相良陽子

九月のまだ暑い日、長野のお城巡りに行ってきました。浅間温泉の帰り道です。その時OG編集部から電話が…。「お城のエッセイを」「えっ、今、松本城からの帰り道です」「あらステキ」こんなリアルタイムに笑みがこぼれました。考える間もなく皆さんにも松本城への旅を感じてほしいなと思いました。

〈国宝 松本城〉色々な所にこの文字が溢れています。松本市の気概を感じました。国宝の響きいいですね。ワクワクします。現存する十二天守のうち国宝は五天守のみ。松本城は日本最古の五重天守。堀に架かる赤い橋。天守の両脇に乾小天守、辰巳附櫓と月見櫓。北アルプス連峰を背景に絵になるきれいなお城でした。

まずは日本百名城スタンプをいただきました。天守は靴を脱ぎ登城です。黒光りする床。地元の小学生がぬか袋で磨いているそうです。市民の方々の力で松本城を守っている事を知りました。複数の太い柱、急な階段が続きます。柱はなぐり加工が施されています。最上階天井は、井桁梁で何本もの柱でがっちり組まれています。天井中央に二十六夜神という

松本城を守る神様が祀られています。乾小天守は年一回の漆塗りの修復中でした。状態を保つ為このぐらいの頻度で修復が必要なのか、と驚きました。

入場パンフレットに「豊臣秀吉は、天正一八年（一五九〇）に小田原城に北条氏直を下し天下を統一する…」との記載があります。北条の名前が出ると親戚のおじさんのような親近感が湧きます。秀吉は江戸の家康を見張る為天守・乾小天守・渡櫓と松本城の整備を進めました。軒瓦はもちろん桐紋です。そして、江戸時代の泰平な時代になってから月見櫓が造られます。優雅な気分を月を眺めたのでしょうか。

松本城も年数を重ね天守が傾いていました。どこかで聞いた話…。まあ小田原城は地震が原因ですが、松本城は天守台の中の支柱が腐り傾いたということです。明治三〇年に修復工事をした記録があります。昭和まで傾いていて、鉄筋コンクリートで基礎を固め直ったそうです。私の日本百名城の旅もまだまだ続きます。只今37城。次は盛岡城かな？



【2023年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

企画名	月日	コース概要
冬の阿弥陀寺 琵琶演奏	1/10・18 (水)(木)	箱根湯本駅～茶の花碑～参道女坂～阿弥陀寺～参道男坂～箱根湯寮～塔ノ沢～函嶺洞門～箱根湯本駅近辺
家康公 小田原の100日 「これからどうする？」(仮)	1/29 (日)	小田原駅～井細田口～福蔵寺～酒井陣場～今井陣場～蓮上院土壘～小田原駅
	2/6 (月)	風祭駅⇒萬松院⇒小田原用水取水口⇒大久寺⇒東海道⇒無量寺⇒なりわい交流館
尾崎一雄ゆかりの地 梅の里 下曾我を歩く	2月下旬	下曾我駅～尾崎一雄文学碑～尾崎家墓地～宗我神社～城前寺前～雄山荘跡～別所梅林
根府川いいとこどり JR鉄道 150・100 年事業	3月	鴨宮・早川・根府川駅 開業百年

・詳細は、小田原ガイド協会ホームページをご覧ください。
・新型コロナウイルスの感染状況等により、延期・中止場合があります。

【九月以降の退会者】

勝又晴美さん

ありがとうございます

【編集委員】

磯崎知可子 柏木由美子
上田 信一

【編集後記】

■「吾唯足知」先日、箱根湯本の「吉池」の庭園で見た石に刻まれていた言葉です。これは京都の龍安寺の蹲を模した物のよう。この歳になっても新しい知識を得るのは楽しいことですね。知識欲は「吾唯足知」ではなく、貪欲でいいです。(知)

令和4年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

朝ドラファ〜ミハルネ店 23-3100	せきしん運輸 42-7375
鰺 竜 北 條 080-5465-0066	田 毎 24-3030
伊 勢 屋 22-3378	田中屋本店 22-5545
う り ろ う 24-0560	だるま料理店 22-4128
魚市場食堂 23-3818	欄干橋ちん里う 22-1547
江 嶋 22-1661	露木木工所 22-5995
小田原種秀本店 22-6238	東 崑 庵 22-4657
小田原箱根商工会議所 23-1811	鳥 か つ 楼 22-2078
籠 清 22-0251	菜 の 花 24-5688
籠 常 商 店 23-1807	箱根屋酒店 22-6416
柏木美術鋳物研究所 22-4328	小田原早川漁村 24-7800
カネタ前田商店 23-4741	平 井 書 店 22-5370
甘味処 鎌 倉 20-4475	松崎屋陶器店 24-2479
居酒屋 金 時 23-0721	マツシタ靴店 24-2233
食事処 幸 繁 22-5155	丸 う 23-0830
グリル 木の実 22-2912	万 葉 の 湯 23-1126
さがみ信用金庫 24-3161	柳屋ベーカリー 23-2342
志村屋米穀店 24-2224	山市湯川商店 22-5637
杉 兼 商 店 22-5051	山 安 21-1137
鈴木製館所 22-3520	R Y O 20-0077
鈴廣かまぼこ 22-2333	

【50音順】